

釧路市教育委員会 令和元年第15回7月定例会会議録

- 1 日時：令和元年7月23日（火）13時00分から14時00分まで
- 2 会場：釧路市教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
(事務局)
高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、大山教育指導参事、
北澤学校教育部次長、藤岡総務課長、松本総括指導主事、
外崎青少年育成センター所長、山口給食担当主幹、久保北陽高等学校事務長、
工藤生涯学習部次長、澤口生涯学習課長、永井美術館長、
佐藤博物館長、古賀動物園長、牧野阿寒生涯学習課長、
伏見音別生涯学習課長
- 4 議事録署名人 山口委員、松尾委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

- 議案第59号 令和2年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について
議案第60号 改元に伴う関係規則の改正について

報告事項

- (1) 令和元年第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和元年第4回釧路市議会6月定例会の審議内容について
- (3) 夏季スポーツ合宿来訪予定団体について
- (4) 「日越ホストタウンバドミントンフェスタ」の実施について
- (5) キリンの誕生について
- (6) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】

議案第59号 令和2年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

(上田北陽高校校長)

令和2年度から新たに採択する教科書について説明する。3学年の「英語表現Ⅱ」で使用する東京書籍の「NEW FAVORITE English ExpressionⅡ」である。

「英語表現Ⅱ」は、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、2学年で学ぶ「英語表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、英語による表現力を伸ばすように設定された科目である。

この教科書の特長は、基礎事項から入って徐々に発展的なものへと配列されており、無理なく英語の基礎力を養うことができる。1レッスン4ページ構成で、段階的に指導できる内容量も適当であり、写真、イラスト、図などが適切に配置されており、視覚的に分かりやすく、興味、関心を引く内容になっている。

また、アクティブラーニングを想定した表現活動が展開でき、授業に生かすことができるという事で、生徒のレベルや指導時間数に合わせた授業が無理なく進められる教科書であることから、令和2年度より新たに採択したいと考えている。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】

議案第60号 改元に伴う関係規則の改正について

(澤口生涯学習課長)

本年10月1日より消費税率が8パーセントから10パーセントに上げられることに伴い、附属設備の使用料が規則において規定されている教育委員会所管の釧路市生涯学習センター、釧路市立美術館、釧路市民文化会館について本年3月の定例教育委員会においてご審議いただき、施行期日を「平成31年10月1日」としたところだが、本年5月の元号改正に伴い新しい元号が「令和」となったため、各規則について施行期日を「令和元年10月1日」と改正するものである。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】 報告事項

- (1) 令和元年第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和元年第4回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(藤岡総務課長)

令和元年度第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について報告する。先の定例教育委員会において議案として審議、承認いただいた教育委員会に関わる補正予算案と、財産取得の件及び契約管理課から提出した「阿寒湖義務教育学校建築主体工事の議案について、釧路市議会6月定例会において全て原案どおり可決された。

また、財政課から提出した釧路市報告第4号、釧路市報告第7号、11号の「専決処分報告の件」について、報告が完了していることをご報告する。引き続き審議内容については、それぞれ学校教育部長、生涯学習部長より報告する。

(高玉学校教育部長)

私からは、令和元年第4回釧路市議会6月定例会、学校教育部に关わる一般質問の概略を説明する。

日本共産党議員団 工藤正志議員より、小中学校のカバンが重たいという問題について、これまでの取組や今後の施策、スクールロッカーの配置検討などの質問があり、私より、全ての学校において、芸術教科の教科書、副読本やドリルなど、置いておくことができる教科書や学習用具を定め、教室内の棚を利用して保管するなどの配慮を行っており、カバンの軽減対策は一定程度進んでいる、今後についても保管場所の工夫などについて学校現場に情報提供していきたい旨、お答えした。また、スクールロッカーの配置については、安全に荷物を保管できるなどのメリットと、教師がロッカーの中を確認できないなどのデメリットの整理を含め、研究していきたい旨お答えした。

公明党議員団 松原慶子議員より、SNSを活用したいじめ等の相談体制の構築に向けた課題についての質問があり、私より、相談できる窓口の充実を図ることは重要である一方、文字による相談対応は声や表情がわからないなど情報が限定されるため、より専門的な相談技能が求められることから、他都市の事例について研究してまいりたい。また、相談できる機会を増やすため、ホームページやフェイスブックを通じた周知など情報発信の工夫をしてまいりたい旨お答えした。

市民連合議員団 板谷昌慶議員より、子どもたちの外遊びの重要性について質問があり、私より、運動機能が発達する時期である子どもたちにとって、外遊びを含め適度に体を動かすことは極めて重要であり、学校において体力向上の取組として1校1実践を実践するとともに、保護者が生活・学習・運動習慣について学ぶ教育講座を実施するなど、外遊びをとおして運動習慣を身に付けることのできる重要性を伝えてきているなど、学校・地域・家庭が一体となって取り組むことが重要である旨お答えした。

新創クラブ 大越拓也議員より、学校施設長寿命化計画について、市の認識や地域の声の反映、今後の庁内連携や検討体制の構築などの質問があり、私より、長寿命化計画は老朽化が進行している学校施設の整備の実施時期や優先順位を明らかにするものである。その策定にあたっては、地域の方々の様々な意見を伺うことは大変重要であり、教育懇談会、パブリ

ックコメント、コミュニティ・スクールなど、あらゆるチャンネルを使いながら取り組んでまいりたい旨お答えし、また、教育長より、釧路市の有する様々な計画との整合性や、今後の人口推計、防災拠点の役割、財政面の課題、さらには余裕教室の活用など、総合的な視点での検討が必要であることから、庁内の検討体制については十分意を用いていきたい旨お答えした。

自民市政クラブ 三木均議員より、奨学金制度について、地元就職者へ返済金の免除制度を設けるべきとの質問があり、私より、釧路市の奨学金制度は、就学能力があるにもかかわらず経済的な理由により進学が困難な方を対象に、等しく教育を受ける機会を確保する事を目的とした制度で、返済金を主な財源しながら安定的に制度継続してきたところあり、趣旨に基づいた支援を継続することが重要である旨お答えした。

次に、教育活動における情報伝達の安全性の確保について、学校ホームページの暗号化に対する質問があり、私より、情報セキュリティ対策は、個人情報保護の観点やホームページから送信される情報の改ざん防止などから重要であると認識しており、今後検討していきたい旨お答えした。

次に、音別地区における義務教育学校のあり方について、児童生徒数の減少に対する認識と対策、ライフサイクルコストの観点から施設の維持に対する見解などの質問があり、私より、小規模校であるメリットを最大限生かせるよう、きめ細やかな指導など、教育への充実を図っていく、また、施設面については、管理コスト縮減も視点の一つではあるものの、何より最適な教育環境を整えることが最重要視されるものである旨お答えした。

次に、音別における義務教育学校の設置について、教育長より、管理コスト、防災の観点なども検討素材の一つであるものの、それにも増して子どもたちにとってどういった教育環境が良いか、ハード・ソフト面からの検討が必要であり、今後もそれらの視点で進めていかなくてはならない認識である旨お答えした。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、今後の免許外教科担任制のあり方、複数校勤務について質問があり、私より、市内中学校では美術・技術家庭など5教科中17名の免許外教科担任が配置されている一方、複数校勤務については免許外教科担任の解消のための方策として3校にて活用しており、より専門性の高い授業を提供できる反面、兼務する教員の負担が大きいと認識している旨お答えした。

また、教育長より、道教委の人事のルールであり、本人の意向や学校の様々な事情もあると考える。今後の人事異動の検討作業を進めるうえで、承知しておきたい旨お答えした。

ここまでが、一般質問の概略である。

次に、総務文教常任委員会 市長総括のうち主な質問について説明する。

自民市政クラブ 草島守之議員より、小中学校の校区見直しと統廃合の検討についての質問があり、教育長より、集団の中で競い合いながら学習したり、社会性を高めるという点を踏まえ学校が一定の規模を確保することは望ましく、学校の小規模化に伴うデメリットが懸念される一方で、個別指導の徹底等による学習内容の定着、地域との密接なつながりを活かした校外学習・体験活動の充実などのメリットがあり、何よりも子どもたちにとって最適な

教育環境を整えることが重要な課題である。また、学校のあり方を考える上で、地理的特性や児童数・学級数の推移、通学距離や学校運営上のコスト、加えて、義務教育学校という新たな学校種への対応もあり、児童・生徒数の一定規模の確保という点だけではなく、それぞれの地域が抱える実情を考慮し、丁寧な検討が必要である旨お答えした。

(川畑生涯学習部長)

私からは、生涯学習部に関わる一般質問の概略を説明する。

自民市政クラブ 伊東尚悟議員より、ポップカルチャー、マンガ、アニメ文化による地域振興について質問があり、私より、釧路出身の漫画家が数多く輩出されている中で、市立美術館においても、マンガやアニメを題材として展覧会を開催しているところであり、今後とも、観光分野との連携も視野に入れながら、マンガ・アニメ文化の情報発信に取り組み、地域文化の一つとして積極的に振興を図って参りたい旨お答えした。

市民連合議員団 岡田遼議員より、釧路大規模運動公園の整備についてご質問があり、私より、スポーツ施設全般における緊急性、優先度などを精査しながら、計画的な施設整備の検討を進めてまいりたい旨お答えした。

次に、総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

自民市政クラブ 草島守之議員より、スポーツ合宿施設充実強化について質問があり、教育長より、現在は学習体験講座の受講を伴う場合や音別町で合宿を行う場合を基本的に宿泊利用を可能としている音別町体験学習センター「こころみ」について、利用向上や不足する宿泊施設を補完する観点から、釧路市内で大会などが行われる場合も宿泊利用を可能とする方向で調整していきたいと考えている旨お答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

学校統合や音別の義務教育学校等の質問が出て、それに対する答弁は非常に適切だったと思っている。統廃合を進めるときに大切にしなければならない、優先しなければならないのは、地元の住民や同窓生の方々の理解を得ながら進めていくのが第1であるべきだと思う。今後、いつどのような形で、この話が具体化していくかはわからないが、そのあたりを十分踏まえて進めてほしい。今回の答弁もそのあたりを十分踏まえた答弁だったのではないかと思う。

【公開案件】 報告事項

(3) 夏季スポーツ合宿来訪予定団体について

(工藤生涯学習部次長)

昨年度の来釧団体数は58団体となっており、人数では1,707人が来釧され定数、人

数共に過去最高となっており、地域の特徴である冷涼な気候と充実した施設環境が一定の評価を受けているものと感じている。

今年度の来釧団体では、日本実業団陸上競技連合や日本大学サッカー部などが、昨年に引き続き合宿を実施する予定であるほか、本年4月1日からプロランナーに転向した陸上男子マラソンの川内優輝選手が、9月にドーハで行われる世界陸上に向けて、6月24日から2か月間の予定で長期合宿を初めて実施しているところである。

また、今年は10年連続となる亜細亜大学硬式野球部の合宿については、8月5日（月）から19日（月）までの日程で実施されることとなっており、8月9日（金）からは「第3回 タンチョウリーグ in くしろ」として、日本を代表する社会人チームのトヨタ自動車、HONDA、JR東日本のほか、プロ野球チームの福岡ソフトバンクホークス3軍や東京読売ジャイアンツ3軍が参加するオープン戦が開催される予定であり、数年後のスターが数多く出場する楽しみの多い試合を観戦できる貴重な機会となっており、全試合入場料無料となっているので、多くの市民にご観戦いただきたく思っている。

来釧される団体については、広く市民皆様に知っていただけるよう、市のホームページで紹介するとともに、すべての団体にとって釧路での合宿が実り多いものとなるよう、関係団体と連携を図り、温かいおもてなしの心でお迎えし、支援に努めてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

今年初めて参加する陸上の富士通陸上競技部は名門ではないか。

（工藤生涯学習課次長）

昨日から来釧している日本実業団陸上競技連合と合同の練習を考えている。富士通陸上競技部と日本実業団陸上競技連合の中には、9月15日（日）に開催されるMGCに出場する選手も数名いると聞いている。

（松尾委員）

ありがたいことにアイスホッケーチームにもたくさん来ていただいている。期間的に7月の中旬から8月末までとなっているが、地元の中学校、高校等もある中で、どのくらいの時間リンクを使っているのだろうか。

（工藤スポーツ課次長）

大体、釧路に来るチームは、午前2時間、午後2時間、2コマを基本としてやっている。ほとんど満杯な状態ではあるが、地元のチームも合宿に来たチームも練習できている。東京にいと、夜中の12時から2時までの練習だとか、そういう時間帯でまだまだ高い金額を払ってやっている現状がある中で、釧路の場合は、昼間のいい時間帯、午後のいい時間帯で2コマ練習でき、値段も安価なため、大変好評をいただいている。

（松尾委員）

リンクも減ったので、リンク割も苦労していると思う。釧路は涼しいので陸トレも楽しん

でやっていただいていると思う。是非、たくさん呼んでいただきたい。

(山口委員)

単独の練習よりも様々なチームが集まっているから、交流試合や練習試合などもたくさんできるということも理由の一つになっていると思う。

(工藤スポーツ課次長)

対戦相手がいるということと、強い大学のチームになると、日本製紙クレインズのマッチが出来るというようなこともあって、釧路を選んでいただいていると思う。

(松尾委員)

テグーワイルドイーグルスは日本ではないのか。韓国のチームなのか。

(工藤スポーツ課次長)

そうである。この他、中国のチチハルからも来ており、まだ正式に日程が決まっていないが、今後も海外のチームが入ってくる。

【公開案件】報告事項

(4)「日越ホストタウンバドミントンフェスタ」の実施について

(工藤生涯学習課次長)

この度、内閣官房オリパラ事務局が公募する「オリパラ基本推進調査」に採択された事業について報告する。釧路市と同様にベトナムを相手国とするホストタウンの自治体であり、とりわけパラリンピック種目の受け入れを主な交流事業と位置付けている東京都国分寺市や大分県佐伯市と連携し、ベトナムから子どもたち、今のところ中学生の招聘を行い、各ホストタウンの子どもたちとバドミントンを通じた交流を図るため「日越ホストタウンバドミントンフェスタ」を実施することとした。

日程については、8月1日(木)から5日(月)までの5日間で、釧路で2泊したのち、東京・国分寺で2泊する予定となっており、その間各種の交流事業を予定している。

釧路市においては、交流試合の実施に加えて、パラ・バドミントンの日本代表候補選手を招聘し体験会を実施するとともに、パラ・バドミントンは東京パラリンピックから正式種目となるものであり、今回の参加者に限らず広く市民の皆さんに見ていただけるよう、周知していく。また、国分寺市に舞台を移してからは、日本体育大学の協力を得て、関西大学リーグ1部の強豪であるバドミントン部による「バドミントンクリニック」を行い、技術の向上を図る。さらには、日本財団の協力を得て「パラスポーツ体験会」へ参加することにより、「パラスポーツ」と「共生社会」に対する子どもたちの理解をより一層深める機会としたいと考えている。

本事業を通じ、両国の子どもたちの一層のコミュニケーション促進を図ることで、子どもたちに国際的な視点が芽生える一助とするとともに、2020年以降も続いていくベトナムとの絆を紡いでまいりたいと考えているところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

宿泊先の「坂の上会館」について、元郵政会館でかなり古い建物だと思うが、リニューアルしているのか。

(工藤生涯学習課次長)

今は合宿に特化した宿泊施設となっており、各部屋に2段ベッドが2つくらいあって、釧路に来るアイスホッケーチームの合宿をバスで送迎しながら受け入れている。ある程度のリフォームしており、格安でできることと、バスがあるので大変便利である。NPO法人のスポーツコミッションが指定を受けており、スポーツを通じたスポーツツーリズム、地域経済の活性化や、スポーツ競技というところに視点をおいた機能となっている。

【公開案件】 報告事項

(5) キリンの誕生について

(古賀動物園長)

7月2日の午前5時27分に、市民から送られたキリンのオス「スカイ」と、繁殖貸与で東京の羽村市動物公園から来園したメスの「コハネ」との間に、元気なオスの赤ちゃんが生まれた。赤ちゃんは午前10時になっても立ち上がらなかったため、一旦、母親のコハネを放飼場に出し赤ちゃんを確認したところ、間接の靭帯が弱いようであった。人が介添えして立ち上がらせると歩行できたが、疲れて座り込むと立ち上がることができなかった。このため、赤ちゃんは母親から母乳を飲むことができない状況であったことから、一時的に赤ちゃんへの人工哺乳と立ちあがり訓練を行うこととし、当日の夜間はダチョウ舎内の空きケージに収容した。

翌朝には、立ち上がることもあったので、コハネを放飼場へ出した後にキリン舎の寝室に戻した。昼には問題なく立ち上がることができるようになったので、夜間、母親のコハネとの同居を再開した。同居の間、コハネは赤ちゃんを舐めたり授乳しようと近づいたが、赤ちゃんはコハネから母乳を貰えることを理解していないようである。このため、現在も赤ちゃんへの人工哺乳を継続している。

7月11日からは、放飼場で運動できるように赤ちゃんも屋外に出し、コハネと終日同居を始めた。父親のスカイも近寄ってくる赤ちゃんを気に掛けている。赤ちゃんは外で元気に駆け回っている。しかし、雨などの悪天候時や人工哺乳の際には、赤ちゃんを一時的に屋内に収容するので、観覧できない場合があることを市民の皆様にはご了解いただきたいと考えている。

なお、市民の皆様とともに赤ちゃんの誕生をお祝いしたく、9月15日(日)に誕生イベントを開催したいと考えている。また、愛称募集を行い、イベントの中で命名式を執り行いたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

母乳の特に初乳を飲まなかったら、免疫が弱くなるということはあるのか。

(古賀動物園長)

それを心配している。ただ、証拠はないが母親が赤ちゃんの口を舐めたりしているので、口經由で何らかのものが入っているので、少しは免疫的に良いのではないかと捉えている。その辺については獣医も慎重に様子を見ている。

(山口委員)

人間の手で絞って与えるのは難しいのか。

(古賀動物園長)

中に入ると殺されてしまう。

(山口委員)

今回生まれたのがオスで良かったと思う。もしメスだったら、大人になって母親から母乳をもらう事を体験しなければ、自分が大人になって子どもを産んだ時に、与えるという体験がない。そういう点ではオスがきたからよかったなど、素人目に思っているが、そういうことも考えられるのか。

(古賀動物園長)

ありうらと思う。人口哺乳で育てて子育てが分からずに、産む子どもすべて人口哺乳になった例もあると伺っているので、その可能性はあると思う。

(小出委員)

キリンのところ人間がいけないとなると、母親の授乳もできなくて、搾乳もできないとなると、母親の乳腺炎など、そういった病気の心配はないのか。

(古賀動物園長)

ある。様子は獣医のほうで毎日見ており、今のところは大丈夫である。

【公開案件】報告事項

(6) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

7月の校長会も既に終わっている。最初に6月の定例市議会の件について、各校長先生方に状況と答弁について説明している。特に学力に関わる質問については、「釧路市教委の「学力」についての基本的なスタンス」という資料を校長会で配布し、これに基づいて答弁している旨説明をしている。

次に「英検 I B A (R L)」について報告する。道教委が実施する英語のテストである。

道教委では、本道の子どもたちが国際社会において主体的に行動できる資質・能力を育成

することが求められている中、広域な本道においては、生徒自ら英語力を把握する機会が十分でないことから、公益財団法人日本英語検定協会と連携して「英検 I B A (R L)」を実施することになった。参加は市町村単位の判断になるので、市教委では生徒が自らの英語力を把握することができるという利点、学校での授業改善や市教委の施策に役立てることができること、学年単位で問題レベルを選択できること、検定料や採点業務がないこと、3年間継続することなどメリットが大きいと判断して、参加することを中学校校長会議で説明した。実施時期は10月になる。

釧路市においても、3年生で英検3級相当の生徒が、全国平均で42.6%、釧路管内において、市内においても26%ということで低くなっている。今後この検定のテストの結果を受けて、英語教育での研修の活用等、これから考えていきたいと思っている。

次に「くしろの子ども大集合」について報告する。

今年度は9月7日(土)に開催する。毎年、子どもたちの本音が多く出され有意義な会になっている。校長会や関係機関には多くの参加を呼び掛けている。特に今年度は会場が釧路市生涯学習センターになったので、近隣校の幣舞中学校、釧路小学校、城山小学校に期待しているところである。

次に生徒指導上の課題について報告する。

休み前なので校長先生方をお願いしており、まず1点目は、生徒指導上の問題、長期休業中の生徒指導に関わる指導である。2点目は、休み明けに自殺が多くなり自殺予防に関わる文科省からの毎年通知が出ているので、これについてのお願いをしてある。次に、教職員も休みに入るので、サービス、機密の保持という事で、3点に渡り休み前をお願いをしている。次に、特別支援の研修講座について、支援員さんの研修も兼ねているが、先生方も参加できる旨説明した。

次に、「算数・数学検定」について報告する。

例年実施している釧路ロータリークラブから寄附いただいた算数・数学検定の件で、今月3日に寄附受納式を行った。今年度も例年どおり実施するが、今年度で最後となる。4年目になるが、これを契機に漢字検定や算数・数学検定を実施する学校も増えた。最終的には各学校判断になるが、せっかくできた環境なので継続していただきたい旨説明をした。

最後に、小中連携研修会について報告する。

7月10日に全市一斉、小中連携研修会を中学校校区で行っている。夏休み明けにアンケートを実施し、各校区での取組を整理して次年度につなげていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

「くしろの子ども大集合」は内容がすごく良いので、できるだけ多くの小学生、中学生に参加してもらいたい。今回、まなぼつとに変わったということで、釧路小学校や幣舞中学校等に期待したいということだが、会場が市民文化会館の大ホールよりも、まなぼつとの方が

人数が少ないので、会場がいっぱいになったという感じは強くなると思う。できるだけ盛り上がった大会にしてほしいと思う。

(種村委員)

英検について、I B A (R L) とは何の略なのか。

(松本総括指導主事)

I B A の略は I n s t i t u t i o n B a s e d A s s e s s m e n t の頭文字をとったものである。R L は、読む方の R E A D I N G の R、L I S T E N I N G の L ということで、このテストは読むことと聞く事この二つの技能を見ることで R L という表記がされている。

(種村委員)

英検に関して、無料でやるのはとても良いことだと思う。この間、中3の全国標準学力テストで英語が導入されたが、結果は北海道が最低だった。トップは福井県である。福井県は昔から英検を無料でやっている。無料でやると参加率が高く、それなりの準備をする。だから結果的に、すごく平均点が高くなっているのだと思う。この英検は将来的に大学入試に、2020年に採用される可能性もある。算数・数学検定はロータリーを通して無料で行っているが、英検の無料化を行政が補助するという事なのか。

(大山教育指導参事)

無料というのは、道教委がお金を出すのではなくて、実施に関わる経費は英検協会において負担すると書いてあるので、英検が無料でやってくれるということである。英検の本物ではなく、英検の縮小版で45分の量に変えてあるので、出てきた解答にあなたが英検を受験するとしたら3級です、という成績表が出てくる。

(種村委員)

実際には3級や準2級など、本当にもらえるものとは違うということか。

(大山教育指導参事)

違う。あなたが英検を受験するとしたら3級です、という成績表が出てくる。あなたが英検を受験するとしたら3級です。と書いてあったら、ほぼ英検3級レベルと判断しても良いとなっているが、正式な3級ではない。

(山口委員)

例えば、あなたは英検3級を受験しても良い実力があるという、お墨付きをもらって実費で受けたとすると、だいたい受かる。受ける時にI B A (R L) を受験して、このように判定されていると申告できるのか。

(大山教育指導参事)

そこまでは分からない。

(山口委員)

そうすると検定協会にとってのメリットは、3年間無料で行うことによって、きっかけをつくり、意識を高めてあとはどんどん自前でやってください、というメリットを狙っているのだと思う。

(岡部教育長)

サンプル体験みたいなのところも含めてきっかけ作りという点では、意味はあるのではないかとということで、釧路市教育委員会としても実施をするという判断をしたところである。

(山口委員)

校長会の校長先生方の受けとめ方は、前向きに受けとめてくれたということで良いか。

(大山教育指導参事)

そうである。